

認知症対応型共同生活介護事業所<楓の郷>調査報告

訪問調査日	平成20年2月4日
調査実施の時間	開始 13時30分 ~ 終了 16時00分
調査事項	[運営方針等]書類調査、職員へのインタビュー
	[技術的事業評価]書類調査、職員へのインタビュー、利用者へのインタビュー
	[照度調査]
	[建築主体、設備等現地確認]

調査概要

グループホーム名: 楓の郷

講評

閑静な住宅街に立地し、東北自動車道のインターチェンジにも近く、近隣に小学校や地区公民館が点在するなど非常に恵まれた立地条件を有しており、地域密着型事業所として、また、認知症ケアのノウハウを有する認知症における地域の拠点として、高い資質を有しているように思われます。事業所の設置が平成17年度と新しい事業所であることから、地域との関係性が見えづらい印象を受けました。今後は、地域密着型事業所として、地域の中で適切な立位置に立つことを期待します。

どの事業所においても問題点として、利用者の身体レベルの低下による転倒が問題となっているようです。貴事業所においても、転倒に対する配慮が必要な状況であるが抜本的な対策をどうすればいいか模索している状況のようです。担当医の先生から100%転倒を防止することは不可能なので、上手な転び方を学ぶようにとのアドバイスを受けたそうですが、非常に有効な考え方だと思われます。これに加えて、更に転倒した時のダメージを軽減すると共に、転倒予防(転ばないこと)の対策を講じることがもっとも重要なことです。転倒予防の対策を講じるためには、個人ごとに身体状況が異なることから、転倒のリスクを個人ごとに評価を行って定義し、個別の対応を行なうことが確実かつ容易な方法であると思われます。設備、介護員、利用者の身体状況に応じた学習(訓練)等総合的な対応を進めて、標準となるスタンダードが策定できるよう期待します。

共有スペースが広く、明るい環境なので、横になって行う筋力保持の運動やレクリエーション等に活用できるのではないかと思います。スペースの有効活用は利用者への利益還元になります。レクリエーションプログラム等と合わせた創意工夫を期待します。

グループホームは共同生活の場であり、共同生活の意味合い(メリット)を生かすためには、個別のアプローチを基にユニット全体をアレンジする必要があります。この際、個別のアプローチが不足していたり、アレンジする能力が不足していたり、顕在化している問題点を解決できないと全体としてまとまりません。特に、問題点の解決は根本的な完治か、一時的な対処療法かで全体の質が大きく左右されるように思われます。そのためにも、広範囲な問題点に対処できる経験を有する職員の知識を共有する仕組みを作り、職員個々がオリジナリティのある発想とそれを実現する技法を確立し、そして事業所としてはバックアップ体制の整備を行なうことが必要になると思われます。

【環境原則】について

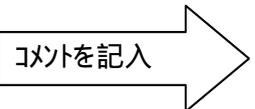
1 心地よい空間、2 プライバシーの確保、3 安らげる場、4 平穏な日常、5 わかりやすいこと、6 五感を大切に、7 使いやすいこと、8 ふれあいの大切さ、9 安全であること、10 やさしいデザイン、以上の環境原則をふまえて、「環境を変えると、ケアの質も変わる」という意識で環境改善に取り組んでください。

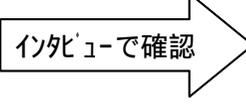
例えば、手づかみで食べることを単に禁止・否定されたら不安になります。しかし、直接手にとって食べることによって、熱い・硬い等を触覚で感じることとなり安心します。このようなことは家庭では実践できないことですが、グループホームにおいては可能であり、グループホームの存在意義はここにあるのではないかと思います。今後一層の事業所の質の向上を期待します。

【運営方針等】書類調査、職員へのインタビュー

チェックポイント	内 容	チェック事項							
入所基準	通常は「少人数による共同生活に支障がない者」として「暴力行為」「自傷行為」がない者とされるが、特に事業所において重視する入所基準等があるか <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> コメントを記入 </div>	共同生活の場であるので、暴力行為のある方については入所は不可である。入所の順番については基本的に申込順である。							
選定	利用者の受け入れを決定する入所者判定において、現場職員の意見は反映されているか(職員と利用者との関係性や他利用者との関係性を築くうえでも重要な事項) <div style="text-align: right; margin-top: 20px;"> コメントを記入 </div>	実地調査後に入所予定者の状況を現場職員に説明している。現場職員は積極的に利用予定者を好評価し、基本的に拒否がない。職員間では色々なケースを経験できることがメリットであると認識している。また、現場職員が実地調査に行くことが多い。							
	利用者又は家族が施設の見学を行ってから選定しているか(申込の段階では書類上であっても、選定にあたっては試行的に適応性を類推する必要はないか)	はい	いいえ	グループホーム側は利用希望者の生活領域(家、地域等)の現地確認等を行っているか(利用者に対する理解と親しみ)			はい	いいえ	
	利用者を選定する際に重視するポイント(重要と思われる順位を聞き取りして記入)	本人の意思(表情など)	家族の意向	緊急度	協調性	経済的問題	地域密着型の理念	その他	
		3	2	4	1	5	-	-	
(その他の内容)		<div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 最重要 </div>							

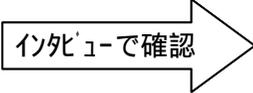
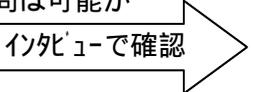
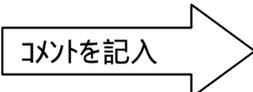
チェックポイント	内 容	チェック事項						
人物把握	個人ファイル等により人物把握の状況を確認 (第三者が見てもその人の人物像を推察できるか)	個人ファイル等で人物把握は十分になされているか(1~3の3段階評価)						
		病歴の確認	生活歴の確認	趣味の把握	職歴の確認	家族との関係	性格	入所理由
		3	3	3	3	3	3	3
	インタビューによりスタッフの理解度を確認	スタッフは人物を理解しているか(1~3の3段階評価)						
		病歴の確認	生活歴の確認	趣味の把握	職歴の確認	家族との関係	性格	入所理由
		-	-	-	-	-	-	-
生活環境の改善や職員の関わりにより生活欲を喚起することによって、表面的な行動異常が緩和される場合もあるが、行動異常のある方について、その背景を理解するためにどのような手法を用いているか、独自の方法や個人ファイルの書式等があれば確認する <div data-bbox="622 758 878 845" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">コメントを記入</div> 	<p>入所後も会話を積極的に行なって人物把握に努めている。 入所者を1人にする事なく、対応についても1対1での対応だけではなく、家族、担当以外の職員、主治医と連携して対応する。事前に連絡して待ち時間なく通院を行なうなど担当医が協力的である。 課題に対する対応の評価はローリングしている。</p>							
情報量と質	利用者を受け入れる人物把握のための個人ファイルを起点とし、その後の1日の生活の様子やケース会議等の議事録、長期・短期目標に対する評価や見直しの状況等の記録全般について、ケース記録を閲覧して評価を行う。 <div data-bbox="622 1037 878 1093" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">コメントを記入</div>  <div data-bbox="622 1149 878 1204" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">実施方法等を記入</div> 	ケース会議の開催頻度		ケース会議記録レベル	評価のスパン	評価内容のレベル	スタッフ間の引継	
		(例) ヶ月に一回 1ヶ月毎に行なっている		良好	(例) ヶ月に一回 3ヶ月毎に行なう	必要に応じて退院後、著しい変化があった場合にも行う	良好	

チェックポイント	内 容	チェック事項
利用者の日常	利用者ごとに適切に一日の生活パターンが把握されているか日誌を閲覧して確認する <div style="text-align: right;">  </div>	記録は適切に記載されており良好である。
ケアの継続性と一貫性	利用当初はADL能力が高くても次第に低下していくような場合、その過程においても共同生活であるが、どの程度になると病院や施設への移行を検討するのか ターミナルケアの考え方は <div style="text-align: right;">  </div>	事業所での見取りについては現在のところ運営法人の方針として取り組んでいないが、ご家族には事業所として可能なケアについて説明し、症状が重度化してきた入所者に対しては事業所の生活ができる限り継続できるように、医師やご家族と連携し、入所者にとって一番望ましいあり方について検討している。
生活の要点	生活の場であるのだから、その人の人生、習慣、趣味等も継続していくべきであり、そのための職員の関わりや利用者との距離感が重要であるが、職員を交えてのレクリエーションや利用者が趣味で作成した絵画・書等の展示があるか事業所内の様子を観察する <div style="text-align: right;">  </div>	(リビングに入所者が書いた習字が掲示してあった。) 入所者の方が作成した作品等は個人ごとにファイリングしており、入所中にイベントなどで撮影した写真をつけて退所時に渡しており、好評である。 その他にも、入所者の中で誕生日の方がいれば、誕生ケーキを作ったりしている。

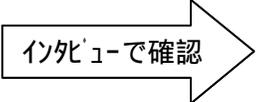
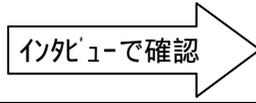
チェックポイント	内 容	チェック事項
健康状態の把握	<p>健康状態の把握は適切に行なわれているか定期健診の内容等をケース記録等から確認する</p> <p style="text-align: center;">コメントを記入 </p>	
	<p>常時行なわれているバイタルチェックの内容とチェックのタイミング((例)朝夕2回と入浴時など)</p>	<p>朝9時30分からバイタルチェックを行っており、午後はバイタルチェックを行っていないが、午後に入浴する方については、改めてバイタルチェックを行なっている。 内容は、血圧測定、体温、脈拍、顔色等の窺いを行なっている。</p>
家族とのかかわり	<p>集団的にかかわり(家族会等)はどのような方法で行なっているか。(年間のイベントカレンダー等があれば確認する)(例)家族向け通信等</p> <p style="text-align: center;">インタビューで確認 </p>	<p>家族には、積極的に関わってもらおう方針であり、イベント開催時には声を掛けている。 月に1回、家族向けのお便りを発行している。</p>
	<p>個別적にかかわりは、利用者に関する情報のヒアリングやケアプランの説明、状態変化による医療の必要性の判断となるが、どのような時に家族に連絡を取るか確認する</p> <p style="text-align: center;">インタビューで確認 </p>	

チェックポイント	内 容	チェック事項						
人間関係	利用者間の人間関係は良好か、他の人との関係性により信頼の確保や生活の広がり期待できる場合がある <div style="text-align: right;">インタビューで確認</div>	現在は利用者間の関係性は良好である。 新規の方についてもスムーズに共同生活になじんでいるように見える。						
日常生活要素 (食事)	食事において、左記の各行為等について、利用者と職員が一緒に行なっている行為等について を付ける	食卓作り	献立の作成	食材等の買い物	調理	盛り付け	配膳	後片付け
	食事に関する一連の行為等は利用者の主体的意思に元づいて行なわれるべきであり、自立支援のためとして、食事作り自体が目的化(レクリエーションの代替)することがないようにする必要がある <div style="text-align: right;">コメントを記入</div>	利用者の方に配膳等を義務化するものではなく、自主性に任せている。 買い物については天候によって判断している。						
日常生活要素 (入浴)	本人の意志に配慮しているか	はい	いいえ	曜日や時間に規制があるか	はい	いいえ		
	入浴介助の体制について、入浴介助が必要な方に対する体制はどうなっているか 入浴が自立している方についても声掛けや入浴前の体調確認、入浴後の水分補給等を行っているか <div style="text-align: right;">コメントを記入</div>	利用者のうち2名は見守り介助で入浴されており、必ず職員1名が身体状況にあわせた介助を行い、安全で快適な入浴ができるように支援している。						
	楽しく入浴するための工夫は(浴室の間取り、設備等も確認する) <div style="text-align: right;">インタビューで確認</div>	季節感を出すため、ゆず湯等を行なっており、歌など楽しみながら入浴する工夫を行なっている。 平成19年の5月には、入所者がそろって「簡保の宿」に温泉入浴に出かけている。						

チェックポイント	内 容	チェック事項
日常生活要素 (排泄)	自尊心の尊重のため個室となるが、コール設備やインターフォンが整備されているか確認する 	コール設備等は特に設置していないが、介助が必要な方については常に声掛けを行なっている。以前、弱視の方が入所されていたときは、ベットから降りたことを感知するセンサーを設置したことがある。
	排泄は健康管理のパロメータとなるので、日誌等を閲覧し記録の内容等を確認する 	
日常生活要素 (掃除)	共用スペースの清掃は共同生活であることの認識を喚起することに有効であることから、利用者也清掃作業に参加しているか、その時の様子はどうか確認する 	生活暦の喚起になるので、出来る方には、出来る範囲で行なってもらっている。
日常生活要素 (洗濯)	洗濯機、乾燥機、物干し場等は利用者が使いやすいものになっているか、また、使い際のルール(別途、費用等)はどうなっているか確認する 	生活暦の喚起になるので、出来る方には、出来る範囲で行なってもらっている。
日常生活要素 (整容)	身だしなみへの配慮は(奇異な服装についても着脱衣の介助をすぐに行ってしまうのではなく注意を自尊心を傷つけないように喚起する) 	入浴後に化粧水を渡したりはしているが、服装、化粧については、家族が準備したものを、本人の好みに合わせて身支度の手伝いをしている。

チェックポイント	内 容	チェック事項
	<p>利用者間のコミュニケーションを進めるための支援はどのようなことを行なっているのか</p> <p style="text-align: center;">インタビューで確認 </p>	
日常生活要素 (コミュニケーション)	<p>外部とのコミュニケーションにおける社会性の維持 職員と利用者とのコミュニケーションで特に注意している点があるか 友人等の外部の者の訪問は可能か</p> <p style="text-align: center;">インタビューで確認 </p>	
外出	<p>日常生活に刺激と満足感を与えるための外出はどのようなことを行なっているか日誌等の閲覧等で確認(買い物、ドライブ、旅行、美容室等)</p> <p style="text-align: center;">コメントを記入 </p>	<p>外出はドライブや散歩を行なっている。 外食にも出かけているが、外出をあまり好まない利用者もいっしょに、その時は特別食にして対応し、不満要因にならないようにしている。</p>
権利擁護	<p>利用者の人権に関する考え方(ポリシー)を確認する 成年後見制度等の活用は可能か</p> <p style="text-align: center;">インタビューで確認 </p>	<p>成年後見制度を活用している利用者はいないが、利用を希望するのであれば、支援は可能である。</p>

チェックポイント	内 容	チェック事項		
契約関係	利用者が長期の外泊や入院等の場合契約は継続しているか	はい	いいえ	3ヶ月が一応の期間の目安であるが、状況に応じて相談に応じている。
	契約書に定める以外に、どのような状況になると退所を勧告するか確認する <div style="text-align: center;">  </div>	以前に暴力や器物の損壊による他者への迷惑行為で共同生活になじめなかった方に、退所の勧告を1度行なっているが、現在はこのような方はいない。		
リスクマネジメント	これまでの事故及びトラブルがあった事例について記録等、インタビューで確認する <div style="text-align: center;">  </div>	これまでに大きな事故等はなかった。		
身体拘束	身体拘束禁止の対象となる具体的行為を行なったことはないか (ある場合) 危険回避のためのやむを得ない行為の場合とはどのよ状態であったか <div style="text-align: center;">  </div>	夜間はスタッフが夜勤者のみになり、特に2階は階段からの転落が危惧されるので、安全面を考慮して2階の階段出入口の施錠を行なうまでは否定しない。 身体拘束廃止に向けたマニュアルがあり、全職員身体拘束は絶対行なわないように、共有認識をもちケアにあたっている。		

チェックポイント	内 容	チェック事項
その他 (支援)	<p>生活行為の中の個々の行為における見極め(できる、できない)と動機付け(やる気の喚起)を行なう際に特に注意している点は</p> <p style="text-align: center;">  インタビューで確認 </p>	<p>興味が湧くような日常となるように、イベント等の準備を行う場合も利用者の方たちがいるところで行うことによって、興味を持って利用者から声を掛けてくることが多い、また、行事自体も入所者の方から「これをやりたい」とオーダーがあることもある。 生活習慣や風習を重視している。</p>
その他 (環境設定)	<p>日常生活においてはやりたい事だけを行なっているだけでは成り立たない、本人の意思にそぐわなくても必要性を納得させたり、やりたいと思わせることが必要となるが主体性を支えるために特に注意している点は</p> <p style="text-align: center;">  インタビューで確認 </p>	<p>スタッフ間で知識や情報を共有し、統一したケアを提供することに注意している。 スタッフが介護技術に精通することで、利用者の方も安楽にケアが受けられるようになり、スタッフも身体的・精神的負担を軽減できるように取り組んでいる。</p>

【技術的事業評価】書類調査、職員へのインタビュー、利用者へのインタビュー

高齢者の身体特性に基づいた配慮	運動機能	評価	状況等	評価者のコメント
1 移動能力 (1)杖の使用 (2)車いすの使用		5 4 3 2 1	車イス利用者は1階2名、2階2名の計4名である。	
2 身体寸法 (1)リーチ範囲(1500mm以下) (2)スイッチ(900～1050) (3)コンセント(400前後)		5 4 3 2 1	スイッチについては車イスからでも手が届くH=90cmに設置しており、消灯後も黄色で点灯表示するようになっている。	
3 転倒(骨折の予防) (1)滑りにくい床材・ソフト床材 (2)連続手すりの設置 (3)ヒッププロテクター		5 4 3 2 1	個室については、床が滑りやすくなるので、ワックスは使わず、水拭きを行なっている。	転倒を完全に予防することは不可能であり、上手な転び方を身に付けるよう、主治医からのアドバイスがあった。
4 筋力の低下(上肢) (1)ドア取っ手の配慮 (2)衣服等の工夫 (3)自助具の導入		5 4 3 2 1	ドアノブはL型で軽く手を添えると開閉するものである。衣服等については、家族にお願いしており、機能性に特化した服装ではない。 自助具については、特にこれ専用のものでなくても、実際使っていただいて、使いやすさの追求で選択している。	
5 筋力の低下(下肢) (1)勾配を緩やかに (2)手すり設置 H=800mm		5 4 3 2 1	室内に勾配はない。 畳コーナーの段差は350mm	
6 敏捷性の低下		5 4 3 2 1		
7 持久力の低下 (1)廊下等にベンチ等の設置		5 4 3 2 1	スタッフの見守りで対応しており、移動の際は部屋まで迎えに行く。	
8 その他		5 4 3 2 1		

高齢者の身体特性に基づいた配慮	感覚機能	評 価	状 況 等	評価者のコメント
1 視覚の衰え (1)足元灯の設置 (2)職員の立ち位置等		5 4 3 2 1	足元灯はない。 非常灯は明るく見やすい。	
2 色覚の衰え		5 4 3 2 1		
3 聴力の衰え (1)コミュニケーション手段の工夫		5 4 3 2 1	現在のところ利用者間のコミュニケーションは良好である。	
4 臭覚の衰え (1)自然換気・機械換気 全熱交換機		5 4 3 2 1	自然換気のみであるが、臭気はない。	
5 触覚・温・冷覚の衰え		5 4 3 2 1		
6 その他		5 4 3 2 1		
高齢者の身体特性に基づいた配慮	生理機能	評 価	状 況 等	評価者のコメント
1 排泄能力 (1)トイレ位置		5 4 3 2 1		
2 消化能力の低下		5 4 3 2 1		
3 睡眠 (1)騒音発生源の隔離		5 4 3 2 1	立地場所が住宅地であることから閑静である。 夜間にラジオを聞く方がいるがイヤホンを使用している。	
4 その他				

高齢者の身体特性に基づいた配慮	心理特性	評価	状況等	評価者のコメント
1 過去への愛着 (1)十分な収納スペース確保		5 4 3 2 1		
2 新しい事象への適応障害		5 4 3 2 1	レベル低下で意思の疎通が取りづらくなっているが、根気良く参加を促している。	加齢、認知症の進行等で全般的にレベルが低下している。
3 嗜好の柔軟性低下		5 4 3 2 1		
4 感情のコントロール低下		5 4 3 2 1		
5 興味の対象が狭くなる		5 4 3 2 1		
6 忘れやすさ		5 4 3 2 1		
7 その他				
高齢者の身体特性に基づいた配慮	生活構造	評価	状況等	評価者のコメント
1 住居(部屋)内の滞在時間が長くなる		5 4 3 2 1	1階は共有フロアーにほとんど出てくるが、2階は3名ほど、自室にこもっている方がいるが、食事の際は自室で食事を取ることはせず出てきてもらっている。	職員や他の入所者による声かけによる、コミュニケーションが重要。
2 過去とのつながり重視 (1)関連人物の訪問し易さ		5 4 3 2 1	訪問については、特に面会時間を設けず、気軽に利用者のご家族や馴染みの方に訪問していただけるよう働きかけている。	
3 近隣交流が狭い (1)外出のし易さ		5 4 3 2 1	ご家族の来所時や天候、体調をふまえて外出を行なっている。	

高齢者の身体特性に基づいた配慮	その他	評 価	状 況 等	評価者のコメント
1 感染症対策 (1)手指消毒器の配置		5 4 3 2 1	アルコール消毒液による消毒を徹底している。	市職員も訪問時消毒の指示を受けた。
2 色彩の心理的効果		5 4 3 2 1		
3 非常時の対応		5 4 3 2 1		
4 その他				
居室ごとの配慮		評 価	状 況 等	評価者のコメント
1 キッチン		5 4 3 2 1	利用者は毎日誰かしか利用しているとのことである。 後片付けは行えるものは各自行なっている。	
2 トイレ		5 4 3 2 1		
3 居室		5 4 3 2 1		
4 浴室		5 4 3 2 1		
5 共同スペース		5 4 3 2 1	シンプルであるが、広く明るい。	

評価・介入計画の立案	評 価	状 況 等	評価者のコメント
1 心身機能に関する評価実施	5 4 3 2 1		
2 問題点(課題)の抽出	5 4 3 2 1		
3 目標の設定	5 4 3 2 1		
4 介入プログラムの立案	5 4 3 2 1		
5 定期的な見直し	5 4 3 2 1		
6 その他			

* 評価欄に の記入がないものについては、今回の調査では実施しなかったもの、評価のためのインタビュー等が完了しなかったため評価ができなかったもの

- 評価基準**
- 5 施設独自の対応策により、利用者に好影響を及ぼしている
 - 4 施設独自の対応策が見られるが、利用者への影響は見られない
 - 3 より進んだ工夫を検討中である
 - 2 最低限の配慮が見られるが、利用者の変化が見られない
 - 1 対応策等が見受けられず、利用者に悪影響を及ぼす(している)